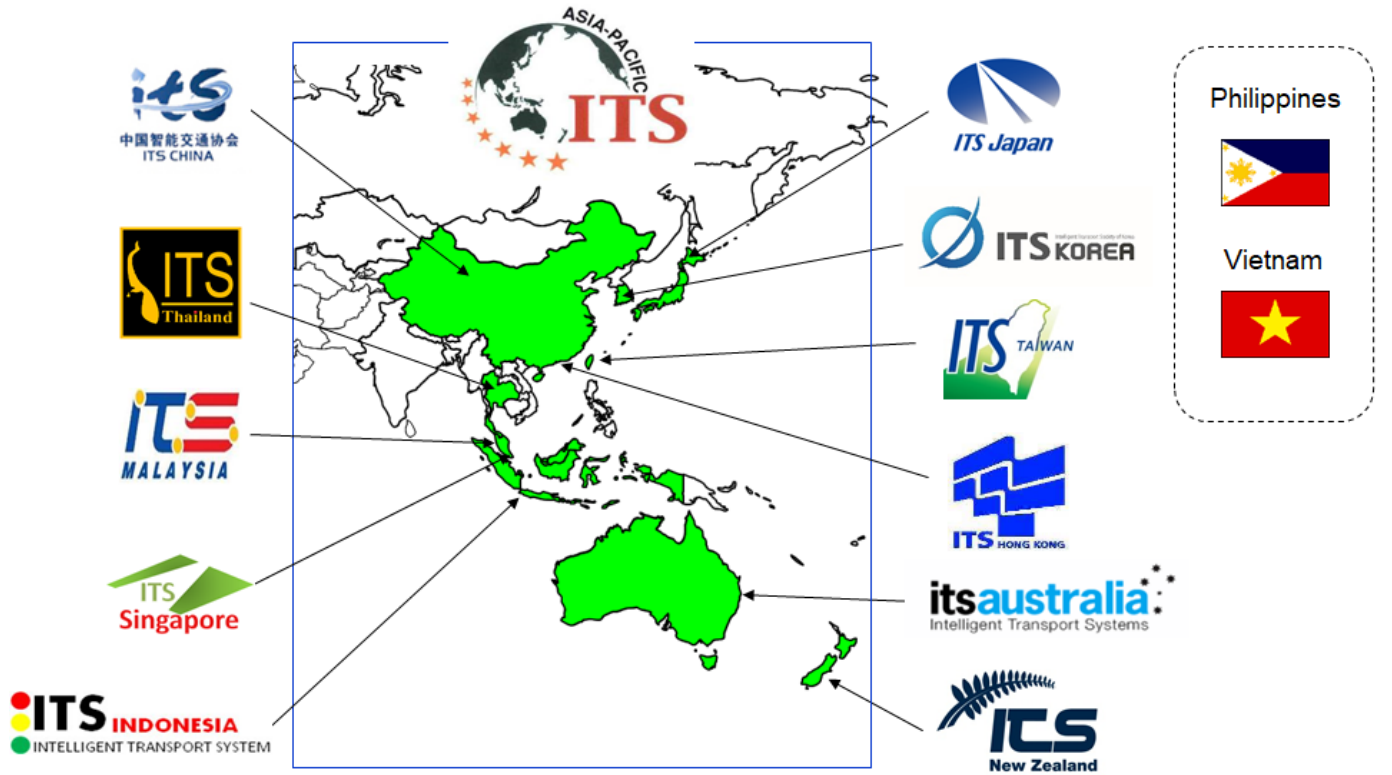


アジア太平洋地域のITS組織

ITS Asia-Pacific に加盟している11の国・地域

ITS Asia-Pacificに加盟している11の国・地域

加盟準備中



| 回次 | 開催年・開催地 | 会期・会場 | 参加・出展数 (日本からの数) | 論文数など | 主な出展企業 | 主幹省庁 | 【メインテーマ】・会議の特徴 |
|------------------------------|-------------------------------|--|--|------------------------------------|--|-------|---|
| 第1回 アジア太平洋地域 ITSセミナー | 1996 (H8) 東京 | 9/24-25 東京ヒルトン ホテル | 参加国・地域：13 参加者：685 | 論文：40 | 展示なし (初年度であり、 セッション中心) | 建設省 | 【アジア太平洋地域の ITS実現のための相互理解と協力関係の構築】1995年 ITS世界会議の成果を、アジアの ITS推進に活かして行くことを主眼とした。日本を含むアジア 14カ国 /地域を設定、今後のベースを構築した。初日のテクニカルビジットは、日本の官・民の最先端 ITSプロジェクトの実験デモ、ITS関連の研究開発及び既に実用化が開始されている施設等の最先端 ITSの実態を紹介。翌日のセミナーは、海外招待者及び日本の官・学・民代表から各々の国/地域の交通の現状、改善のための施策等についての講演や、アジア太平洋地域でのITSの普及・実用化を推進するための方策、今後のITS協力体制等について活発な意見交換が行われた。 |
| 第2回 アジア太平洋地域 ITSセミナー | 1997 (H9) ケアンズ | 7/21-22 ケアンズ コンベンション・ センター | 参加国・地域：14 参加者：164 出展数：12 | 論文：35 Presen：3 Round Table：3 | VERTISブースに共同にて 企業のパンフレット紹介 | 警察庁 | アジアセミナーの持続を目指して、オーストラリア開催にこぎつけた。小規模なセミナーであったが、親近感のある貴重な交流が可能となった。アジアの ITSは国 /地域により普及状況に差があるものの、「交通の渋滞と管理、付随する環境の影響」「混合交通における安全」「公共交通管理」といったアジア固有の課題に加え、「ITS実施におけるパートナーシップを民間の役割」「国際競争力を向上させるための輸送システムの重要性」「IntegrationとInertoperability」が重要論点となり、この焦点として「安全」「交通管制」「技術向上」という交通課題を解決しようという意気込みが各国とも鮮明になってきた。これらの実情が具体的に報告され優意義であった。 |
| 第3回 アジア太平洋地域 ITSセミナー | 1999 (H11) クアラル ンプール | 7/4-7 Legendホテル | 参加国・地域：17 参加者：332 (69) 出展数：17 (5) | 論文：25 TS：3 | 松下通信工業、 トヨタ自動車、 東芝、 住友電気工業、 VERTIS | 運輸省 | 【ITS Vision for Efficient Transport】マレーシア公共事業大臣が出席し、挨拶で、ITS マスタープランの策定が進行中であることや、国内の産業振興も意識しながら ITS をさらに推進していく決意を述べた。セミナー会場のロビーを利用した展示会では全部で 17 社 /団体が出展した。日本からは前記の 5 社 /団体が、パンフレット、ビデオ、実物を交えた展示物を出展、大いに盛り上がった。テクニカルビジットとしては、クアラルンプール交通管制センター、Multimedia Super Corridor (MSC)、ハイテク民間会社、Proton 自動車工場という 4 つのコースに分かれて実施された。 |
| 第4回 アジア太平洋地域 ITSセミナー | 2000 (H12) 北京 | 7/4-7 北京国際展示場 | 参加国・地域：17 参加者：870 (60) 出展数：80 (6) | 論文：85 ES：3 TS：3 | 松下通信工業、 トヨタ自動車、 東芝、オムロン、 住友電気工業、VERTIS | 郵政省 | 【ITS - New Era Choice of Transport】参加者数、展示規模ともこれまで最大規模のセミナーで、開会式も各国 VIP が参加した国際色豊かなものとなった。AP 地域の交通問題を活発に論議し、民間企業のサポートによる科学技術部主催の ITS 優秀論文コンクールが行われるなど、欧米の行事参加が目をついた。中国における ITS の検討が急速に進んでいることがよく分かった。また科学技術部中心として ITS 関係部 (省) に ITS が浸透しつつあることがうかがえた。2000 年秋のトリノ世界会議における、2004 年開催国承認にむけて、アジア太平洋地域内の合意づくりに努力が続いた。 |
| 第5回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2002 (H14) ソウル | 7/2-5 COEX コンベンション センター | 参加国・地域：17 参加者：1,161 (59) 出展数：74 (4) | 論文：180 Session：30 | トヨタ自動車、 松下通信工業、 三菱重工業、 ITS Japan | 総務省 | 【Shaping the Future with ITS】従来の“セミナー”から“フォーラム”に名称を変更した。ITS韓国の努力により、全体としてまとまったフォーラムとなった。日本からの参加は、韓国へのビジネス展開への意欲が出にくい中で、事前の募集活動は順調ではなかったが、韓国やアジアの ITSを知るよい機会となったとのコメントもあり、意義あるものとなった。セッション関係では、アジア各国 /地域の発表内容が具体的でITSがアジア太平洋に浸透していることがうかがわれた。 |
| 第6回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2003 (H15) 台北 | 10/6-9 台北国際 コンベンション センター | 参加国・地域：15 参加者：715 (40) 出展数：82 (4) | Session：33 | トヨタ自動車、 三菱重工業、 住友電工、 ITS Japan | 経済産業省 | 【ITS Bettering Markets & Society】SARS問題の影響で当初より約 3ヶ月延期されての開催となったが、昨年のパプアニューギニア初参加に続いて、今年はイランが初参加するなど徐々にアジア太平洋での ITSの広がりが感じられる有意義なフォーラムとなった。SSでは「アジア太平洋地域のネットワーク」と題して台湾と中国の交流セッションが行われたことも大きな特色となった。展示会への来場者は3日間で延べ 2,500名にのぼった。台湾の ITSは、交通省が統括的に実施しており、ITS全体構想を作成し積極的に推進するなど、アジア地域としての推進の勢いが感じられた。2004年の「ITS世界会議愛知・名古屋2004」開催に向けてPRが行われた。 |
| 第7回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2005 (H17) ニューデリー | 8/9-11 Hotel Ashok | 参加国・地域：12 参加者：275 (24) 出展数：14 (7) | ES：4 SS：3 TS：11 | トヨタ自動車、 日立製作所、 東芝、 矢崎総業、 松下電器、 HIDO、 ITS Japan | 警察庁 | 【Towards New Horizons】南アジアで初の開催ということで、参加登録者は近年と比較して小規模だったが、インド政府から科学技術大臣・重工業大臣・都市計画大臣の 3名の大臣が出席し、欧米の関係者も参加するなど目覚ましい経済発展が期待されるインドにおける、ITS普及のスタートラインともいえるべき位置づけで、記念すべきフォーラムとなった。最近の経済成長にもなっており、インドのモータリゼーションは急速に進んでおり、自動車市場規模は 5年後には年間 200万台となるとの予測もある。しかしながら、道路などの交通インフラの整備は遅れているのが実情である。今回のフォーラムを機に、ITSの必要性が政府に認知されたことで、官民一体となった今後の環境整備が期待される。日本からは、警察庁をはじめ、24名が参加し、「日本の ITS」と題したエグゼクティブセッションで日本のITSの状況について紹介するなど、各セッションで多くの発表を行った。また、併設展示会には、7社・団体による「日本ブース」共同出展を行った。また、ITS Japanが企画した、インド政府関係者との意見交換会や現地企業訪問などへ多くの日本人関係者にご参加いただいた。 |
| 第8回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2006 (H18) 香港 | 7/10-14 Hong Kong Convention and Exhibition Centre | 参加国・地域：19 参加者：316 (37) 出展数：28 (3) | 論文：70 ES：7 TS：14 | トヨタ自動車、 三菱重工業、 ITS Japan | 総務省 | 【Sustainable ITS Development in Environment and Logistics】史上初めて海外からの参加者数が地元参加者数を上回る、「国際コンベンション都市・香港」ならではの特徴あるフォーラムであった。(会議登録者数約 320名のうち 3分の 2が海外からの参加者。)2000年の北京大会以来 6年ぶりにタイ代表団が参加し、自国の ITSプロジェクトを紹介し、2009年の ITSフォーラム開催に意欲を見せた。また、来年の ITS世界会議開催を控える中国からの ITS推進計画、世界会議準備状況報告などの発表は、欧米を含む多くの参加者の注目を浴びた。各セッションでは、各国・地域における交通問題の報告や、その解決策としての ITSの導入・普及事例の紹介、ITS技術の研究開発事例の紹介などが行われ、アジア・太平洋地域での ITS発展の共通認識形成のための貴重な議論とネットワーキングの場となった。しめくくりの閉会式では、「ITS Asia-Pacific」加盟国・地域が ITS発展のために協調してゆくことを記した覚書 (Memorandum of Understanding) の調印式が行われ、10カ国・地域代表者が署名し、互いの協調を誓い合った。次回は 2008年にシンガポールで開催されるが、アジア・太平洋地域の ITS普及のために、このフォーラムがこれまで以上に貢献するよう支援してゆくことは、「ITS Asia-Pacific」事務局の任にあるITS Japanの大きな使命である。 |
| 第9回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2008 (H20) シンガポール | 7/14-16 Suntec Singapore | 参加国・地域：19 参加者：700 (35) 出展数：37 (4) | 論文数：80 ES：4 SS：2 TS：13 | トヨタ自動車、 三菱重工業、 フォーラム8、 ITS Japan | 国土交通省 | 【Connecting U & I】シンガポール交通局 (LTA) と ITS シンガポールの共同開催にて行われた。シンガポールは、ロードプライシング (ERP：Electronic Road Pricing) などで ITS 整備の実績を持ち、シンガポールの ITS 紹介セッションや展示、テクニカルツアーなどが行われた。また、日本をはじめ、アジアの国 /地域、欧州、米国などからの海外スピーカーにより国際色豊に数多くの議論が活発に行われた。期間中、会議登録者約 300 人、参加者は約 700 人と多数の参加があり、セッション会場、展示会場は大いに盛り上がった。次の 2009 年開催のタイもブースを出し開催 PR に努めていた。アジアの ITS は着実に力をつけてきており、活発な活動をしていることが伝わってきた。今後の日本のあり方について大変参考になるフォーラムであった。 |
| 第10回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2009 (H21) バンコク | 7/8-10 Queen Sirikit National Convention Center | 参加国・地域：22 参加者：700 (35) 出展数：22 (6) | 論文数：34 ES：3 Session：68 | トヨタ自動車、 豊田通商、 三菱重工業、 住友電気工業、 フォーラムエイト、 ITS Japan | 警察庁 | 【Smart Move】開会式には、首相やタイ政府関係者が出席し、全国紙にも取上げられたことでタイにとって今後の ITS 普及への足掛かりとなるフォーラムとなった。また、治安問題、新型インフルエンザおよびグローバルな経済状況の悪化の中、参加者や参加国数は過去の AP Forum に劣ることなく、会議は成功したと言える。タイの交通事情は、ここ 10 年で空港と市内の高速道路建設、スカイトレインや地下鉄の公共交通機関の整備により、従来より渋滞は緩和されていますが、いまでも市内の渋滞は激しく、今後関係省庁や民間との連携による、ITS の開発や導入が期待される。今回のフォーラムでは、アジア諸国・地域の ITS の開発・導入の発表の内容に関して、従来より課題などを掘り下げていること、また、二輪車の混合交通、安全、標準化、教育や ITS 関係者の次世代育成、などについて共有の課題が議論されている。ITS AP フォーラムは、今後とも AP 地域として環境対応などの地球的な課題とアジア特有の課題の両面を議論する場として益々その重要性を増し、ITS Japan としても積極的に議論に参加していく必要がある。 |

| 回次 | 開催年・開催地 | 会期・会場 | 参加・出展数 (日本からの数) | 論文数など | 主な出展企業 | 主幹省庁 | 【メインテーマ】・会議の特徴 |
|------------------------------|--------------------------------|---|---|---|---|-------|--|
| 第11回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2011 (H23) 高雄 | 6/8-10 Grand HI-LAI ARENA | 参加国・地域：20 参加者：459 (42) 出展数：27 (4) | 論文数：113 PL：2 TS：19 | トヨタ自動車、 三菱重工業、 住友電気工業、 ITS Japan | 経済産業省 | 【ITS：Seamless and Boundless】開会式では、「情報通信分野における技術先進国として、情報技術のITSへの応用を模索している」とスピーチされるなど、台湾は、これまで以上にITSに対して注力している。セッション構成も、中国との交流を模索した中国語オンリーのセッションや、出展企業のPRセッションが企画された。また、ITSをテーマとした未就学児の絵画コンクールが企画されるなど、ITSを市民に身近に感じてもらう新たな試みが行われた。APフォーラムは、世界会議と比べると来場者数・出展者数こそ少ないが、逆に意識ある東南アジア諸国のITS専門家が集う場となっており、日本の国際戦略を検討する上で、人的ネットワークの形成と言う機会創出の場として有効であり、2012年のマレーシア・フォーラムにむけ、ITS Japan会員に対する働きかけを強めていく。 |
| 第12回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2012 (H24) ク アラ ルンプール | 4/16-18 Sunway Pyramid Convention Center | 参加国・地域：22 参加者：809 (40) 出展数：50 | 論文数：73 PL：3 ES：2 SS：6 TS：7 | 三菱重工業、 パナソニック、 住友電気工業、 ITS 世界会議東京2013 日本組織委員会、 ITS Japan | 国土交通省 | 【Powering Transformation in Transportation】マレーシアでは1999年に続き2回目の開催となった。主催者である公共事業省のDatuk Seri Shaziman bin Abu Mansor 大臣からマレーシアとしてITSマスタープランを作成し、交通情報提供、安全への取り組み、公共交通の充実、渋滞等様々な交通問題への取り組みにITS技術を適用し、ITSを政策として推進する事が表明された。開会式でのスピーチや、PLでのカントリレポート等を通じ、AP各国のITSの著しい発展、普及状況、課題への取り組み等が示され、活発な論議が行われた。併設して行われた展示は、3日間を通して多くの人が参加し盛況であった。「ITS世界会議東京2013日本組織委員会」も展示コーナー（AP共同ブース内）を設け、積極的なPRに努めた。会員向け企画ツアーでは、4月16日にITSインドネシアとの交流を行い、APフォーラム終了後の4月20日には、ITSタイと連携し、3箇所（バンコク交通警察、Ministry of Transport、チュラロンコン大学）を訪問し、ITSに関する多くの情報交換を行った。 |
| 第13回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2014 (H26) オークランド | 4/28-30 AOTEA Centre | 参加国・地域：28 参加者：365 (35) 出展数：46 | 論文数：69 PL：3 ES：2 TS：13 | ITS Japan共同ブース (総務省、国土交通省) | 総務省 | 【SCORE：Safety, Choices, Opportunities, Results, Efficiencies】初のニュージーランドでの開催となり、ニュージーランド最大の都市オークランドで開催された。“Safety”、“Choices”、“Opportunities”、“Results”、“Efficiencies”の頭文字をとった“SCORE”をテーマとして開催され、消費者の夢を実現するITSを成長産業として位置づけられるなか、「喫緊の交通課題への解決に向けた技術統合」「リアルタイム交通情報への需要拡大」「連携と合意の必要性」などを中心に、アジア太平洋地域を中心とした産官学の専門家による活発な議論や情報交換および交流が行われた。展示会場では、会議セッション間のティールイクを展示会場内に設けるなど、効果的に会場内へ参加者を誘引し、多くの来場者によるネットワーキングの場として活況を呈した。 |
| 第14回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2015 (H27) 南京 | 4/27-29 Nanjing International Expo Center & Jinling Conference Center | 参加国・地域：24 参加者：2,053 (24) 出展数：150 | 論文数：125 PL：3 ES：5 SS：8 TS：21 YS：2 | 住友電気工業 Forum8 ウェザーニューズ ITS Japan共同ブース (経済産業省、国土交通省) | 経済産業省 | 【Transferable・Connectable・Sustainable】中国で2回目の開催となり、中国四大古都の一つ江蘇省の省都南京で開催された。南京市は、2013年に中国初のスマートシティのモデル都市に選定され、ITSは都市機能の強化・都市公共サービスの改善・住民満足度向上等スマートシティ構築に不可欠な要素と位置づけられている。総参加者数は10,000人を超え過去最高を記録した他、APフォーラム初のデモンストレーション開催や大規模な展示会など、従来のAPフォーラムの概念を超えた盛大なイベントとなり、活発な議論や情報交換・交流が行われた。海外からの参加では、DAIMLER/BMW/SIEMENS/SAP等ドイツ系企業の積極的な参画が印象的だった。また、2007年に北京で第14回ITS世界会議が開催された当時のベンチャー企業が、今回は単独で展示会に出展出来るまでに成長を遂げているなど、中国のここ数年の勢いを感じさせるフォーラムだった。 |
| 第15回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2017 (H29) 香港 | 6/26-29 Hong Kong Convention & Exhibition Centre | 参加国・地域：18 参加者：785 出展数：47 | 論文数：54 PL：2 ES：2 SS：8 TS：15 | 住友電気工業 三菱重工メカトロシステムズ NEC 2018APF福岡 ITS Asia-Pacific ITS Japan | 警察庁 | 【Metropolitan Transportation Infrastructure in Smart Cities】2006年以来香港で2度目の開催であるが、ここ数年の演出に凝ったビッグイベントとは一線を画し、全体においてシンプルでこじんまりと纏った手作り感のあるフォーラムだった。一方、非AP地域からの出展（Siemens, Kapsch, Easymile等）・論文発表は多岐にわたり、AP地域への関心の高さと香港ならではの敷居の低さを感じさせた。日本は、セッション・展示等で香港に次ぐ存在感を発揮。開会式・展示会場オープニングセレモニー・ガラディナー等、要所でAPBODメンバーが本フォーラムの盛上げに貢献していた。また、地元中学生を対象にした、未来の香港（含む交通）を描くPoster Design Competitionなどのプログラムは、次世代のITS人材の育成をテーマに掲げる2018福岡大会の参考にもなるだろう。会期直後に中国返還20周年記念式典を控え、開催10ヶ月前に会場変更を余儀なくされるなど、各種制約が多いと思われる中、組織委員会が良く乗り切ったフォーラムだった。 |
| 第16回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2018 (H30) 福岡 | 5/8-10 福岡国際会議場・ 福岡サンパレス | 参加国・地域：27 参加者：3,556 出展者数：80 | 論文数：154 PL：2 ES：2 SS：9 TS：24 HL：3 HS：5 | トヨタ自動車、パナソニック、デンソー、本田技研、三菱電機、日本電気、沖電気工業、住友電気工業、ジェイテクト、東芝、三菱重工メカトロシステムズ、富士通、KDDI、アイシン精機、矢崎エナジーシステム | 総務省 | 【Everyone's Mobility by ITS: ITSが支えるモビリティ社会の実現を目指して】第1回(1996年)の東京開催から22年振りの日本での開催となった福岡市は、日本で最も元気な都市。グローバルスタートアップセンターを目指しており、人口増加数・増加率・若者の割合が、政令市中1位。また、九州の陸海空の玄関口（アジアのゲートウェイ）。福岡・九州は、「交通情報と支払い手段の一元化」や「ITSによるシームレスな交通ネットワーク網の構築」など、日本の未来を先取りした取組みを展開中。当フォーラムの特徴は、①ITSを従来の人々の観点から更に踏み込んで、人・個人の観点から考えようとした②近年の重要テーマ「自動運転」に関して大規模なデモを実施（デモの規模は、自動運転以外も含め過去最高レベル）③次世代の人材育成のための「アイデアソン」を開催（高専と連携し、今後も継続予定）。セッションでは、安全・安心な社会、スマートモビリティ、次世代のモビリティ、ITS実用化のためのインフラ技術、次世代の人材育成など、広範囲のトピックがカバーされた。日本のみならずAP地域の影響力あるリーダーの方々や講演、充実した展示会等により、参加者の評価は概ね好評だった。また、開会式でのITS AP理事(11名)の紹介並びにITS AmericaとERTICO両CEOの参画も当フォーラムの盛上げに貢献した。 |
| 第17回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2021 (R3) (ブリスベン) | 4/12-15 オンライン開催 | 登録国・地域：20 登録者：904 出展者数：50 | 論文数:197 PL:3 ES:7 SS:17 TS:41 WS:2 | NEC Australia ITS Asia-Pacific ITS Japan | 経済産業省 | 【ITS Innovation Creating Liveable Communities】COVID-19の影響により、当初予定の2020年から1年遅れて開催。2021年は、リアルとオンラインのハイブリッド開催を予定していたが、COVID-19の感染拡大により、直前になってAP Forum初のオンラインのみの開催となった。セッションの他展示・デクニカルツアーも全てオンラインで開催されたが、セッションに登壇する海外スピーカーは、全て録画での参加となり、特に大きな問題無く運営された。全体的に海外のスピーカーが少なく、自国のスピーカー中心のセッション構成になったり、自国の出展者中心の展示会になったことは致し方ない。日本からは政府代表として、経産省の植木室長がPL2にご登壇。ITS Japanの天野専務理事・見並理事も登壇し、日本のITSの取組み（含SIP-adus、ITS Japan第4次中期計画の概要）をしっかりと訴求した。 |
| 第18回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム | 2022 (R4) (成都) | 4/27-29 オンライン開催 | 登録国・地域：24 登録者：1,400 出展者数：13 | 論文数:105 PL:2 ES:4 RLF:2 TS:12 IS:4 YF:4 | HUAWEI ITS Korea China ITS Industry Alliance ITS Asia-Pacific | 警察庁 | 【ITS Driving for a Better Life】COVID-19の影響により、完全オンラインで開催。日本からの登壇者は全て録画での参加となった。開会式には、ITS AP事務局長としてITS Japanの天野理事がご挨拶。Opening Plenaryには、日本の政府代表として警察庁の山崎理事官が登壇。Regional Leaders Forumには、ITS Japanの山本専務理事が登壇し、日本のITSの取組み（含ITS Japan第4次中期計画の概要）を訴求した。全体的に中国の登壇者が多く、中には英語の通訳が無いセッションもあるなど課題も見えたが、直近までハイブリッドでの開催を前提に準備してきた所、コロナの感染状況を踏まえ、開催直前に完全オンライン開催に方針転換せざるをえないなど、準備面で相当苦労があったと推測される。開会式の中国交通運輸部主席技師のスピーチでは、「中国は、2035年までに3次元交通網のデジタル化を実現し、スマートレインや小型コネクテッドカー等の適切なインフラを整備し、世界有数の交通国家を目指す」との意気込みが語られた。 |

| | | | | | | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|--|--|--|--|--------------|---|
| <p>第19回 アジア太平洋地域 ITSフォーラム</p> | <p>2024(R5) (ジャカル タ)</p> | <p>5/28-30 Jakarta Convention Center</p> | <p>参加国・地域：25 登録者：1,128 出展者数：41</p> | <p>論文数：連絡待 HLP:2 PL:3 SIS:17 LF:2 AF:5</p> | <p>インドネシア運輸省, Nusantara Capital City, Kadin Indonesia, Q Free, NEC, ITS Aus/NZ, ITS Taiwan, ITS AP, 韓国江陵市, 水原市</p> | <p>経済産業省</p> | <p>【Transformation Towards a Sustainable and Intelligent Urban Mobility】 対面開催の AP Forum としては、2018 年の福岡以来 6 年振りの開催となった。インドネシアで交通関係の会議を 3 日間開催したのは、当 AP Forum が初めてとのことで、インドネシア側は大変盛り上がりしていた。また、インドネシアは新首都ヌサンタラへの移転プロジェクトを抱えており、民間の投資を促進する為もあり官側の積極的な参加（含む展示）が特徴的だった。テクニカルツアーでは、ジャカルタの都市高速鉄道・高速バス輸送・新幹線（中国との合弁）試乗の他 MRT も含めて公共交通の発展を実感することが出来た。Grab や Gojek 等バイクタクシーは完全に市民の足となっている。2060 年までに net Zero emission 達成を目標に、Jakarta Initiative（新首都での EV エコシステム、公共交通サービスと切符の統合、スマートな交通管制システム、支払いのデジタル化等）を発表。</p> |
|---------------------------------------|----------------------------------|--|--|--|--|--------------|---|